

小平都市計画道路 3・3・8 号府中所沢線に関する 市民による「対話の場」の設置について

請願理由

小平都市計画道路 3・3・8 号府中所沢線（以下、小平 3・3・8 号線）は、府中から所沢までを結ぶ東京都の都市計画道路の小平市部分を指します。五日市街道から青梅街道と府中街道との交差点まで、南北 1.4km の区間を府中街道と並行して走る道路の計画です。

小平 3・3・8 号線は、1962 年に都市計画道路として計画決定されました。建設されないまま 48 年が経過し、2010 年 2 月になって、東京都は道路の幅員を 28m から 36m に変更する素案についての住民説明会を開催しました。現在、環境影響評価を行っています。

東京都は、小平 3・3・8 号線の必要性の根拠として、府中所沢・鎌倉街道沿線の東村山市から町田市までの 6 市を相互に行き来する自動車の延べ台数（1 日あたり）が、2005 年の 67,000 台から、2030 年には 34%増加して、90,000 台となるという交通量予測^{*1}を示しました。しかし、小平市の資料によれば、府中街道のふれあい下水道館前での交通量は、2001 年から 2009 年までほぼ横ばいで^{*2}、都予測の増加傾向とは異なっています。

小平 3・3・8 号線の整備効果^{*3}として、東京都は「多摩地域における人やモノの動きの円滑化」「府中街道をはじめとする周辺道路の渋滞緩和」「生活道路に進入する通過交通の排除による良好な居住環境の確保」「地域の防災性や安全性の向上」「環境施設帯による快適な都市空間の創出」をあげています。

一方、建設予定地には、国の史跡で小平グリーンロードとして親しまれる玉川上水や、小平市中央公園に隣接する面積 13,000 m²の雑木林があり、200 戸以上に及ぶ緑豊かで閑静な住宅地が広がっています。小平 3・3・8 号線が建設されると、小平市に残された貴重な緑の回廊が喪失し、200 世帯以上の市民が立ち退きを余儀なくされます。また、4 車線道路により、コミュニティーが分断され、大気汚染や騒音被害がもたらされることも懸念されます。この事業には、およそ 200—250 億円の費用がかかると言われています。

計画決定直後の 1963 年 1 月には、津田町、上水本町、小川町 1 丁目の人口は、約 10,000 人でしたが、2011 年 1 月には、約 31,000 人^{*4}と 3 倍に増加し、数多くの市民が、計画を知らないまま定住しています。1962 年の計画決定当時と比べて、社会・自然環境や人々の価値観は大きく変わりました。

小平市の自治基本条例第 10 条（参加の機会の保障）では、「執行機関は、次に掲げる事項を行う場合は、参加をする機会を保障するものとする」として、「市民生活に重大な影響を及ぼす施策又は制度の導入又は改廃」と明記しています。

小平 3・3・8 号線は、小平市民および小平市の環境に非常に大きな影響を与える道路計画ですが、市民への周知は不十分です。また、計画については賛否双方の意見があり、十分に議論が尽くされたとはいえない状況です。

よって、請願者は、小平市民として、小平 3・3・8 号線計画について、市民同士で議論する「対話の場」の設置を提唱し、以下のことを求めます。

*1 小平都市計画道路 3・3・8 号府中所沢線パンフレット『道路の整備効果』（東京都作成） *2 平成 22 年度『小平市の環境』（小平市環境部環境保全課作成） *3 小平都市計画道路 3・3・8 号府中所沢線パンフレット『都市計画変更素案のあらまし』（東京都作成） *4 小平市行政経営課統計係より入手

